

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御質問について】

No.	委員名	該当箇所	御質問の概要	事務局回答
1	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	・なぜ段階を「フェーズ」という表現にしたのか？（段階という意味で使用するなら「ステップ」の方が馴染むような気がするが）	・「局面」という意味で「フェーズ」を使っています。フェーズの中にさらに細かい段階（ステップ）がある、という考え方がありますが、イメージとしてはその考え方が近いものと捉えています。
2	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	・3段階のフェーズはターゲットを3段階に広げているだけでは？	・最終的には、こうした取組により町に活力と賑わいを創出し、小樽市そのものがひと旗をあげることを目指すものです。
3	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	・他市町村と差別化が難しいなどの理由で、主にスモールビジネスに的を絞ったようだが、その根拠（他市と差別化できると考える理由等）は？	・少子化対策や子育て施策のみでは他市町村と大きく差別化を図ることが難しいと考え、小樽の自然環境や観光都市としての魅力を背景に店舗経営など起業されている移住者が多いことから、起業を目指す移住者を最初のターゲットにすることとしました。
4	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウィング）	資料1－2 4ページ	・No6. 「コミュニティ・スクールを導入する小中学校の割合」の基準値が3.3%であるのに対して実績値が24.1%とわずか2年で大幅な伸びをみせているのはどのような要因のためか？ また、目標値は30%以上となっているが、達成度が現時点で目標を達成している（①A）と判定されている理由は？	・コミュニティ・スクールについては、平成30年度時点では導入校が1校だったのに対し、令和元年度で3校追加、令和2年度でさらに3校追加と、現在7校が導入済です。小学校17校、中学校12校の計29校に対し7校導入、この割合を数字で表すと24.1%ということですが、大きな要因は、コミュニティ・スクールについての地域説明会を開催し、国や道の情報を市内全校に周知することで、学校・地域・保護者に対する導入の理解促進に努め、導入校の増加が図られたことが主たる要因と考えられます。 ・総合計画の達成度に合わせています。考え方としては5年間で徐々に目標値に近づいていく右上がりの進捗を想定しており、その場合、今回の時点で達成すべき値を上回っているため、「達成している（①A）」と判定しています。

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御質問について】

No.	委員名	該当箇所	御質問の概要	事務局回答
5	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウィング）	資料1-3 1ページ	・（2）の表中「うち企業会計」の意味が解らないので教えてほしい。	・説明が至らず恐縮です。小樽市の「企業会計」とは「病院事業会計」「水道事業会計」「下水道事業会計」「産業廃棄物等処分事業会計」のことです。